

## ( 別 紙 )

### 「子どもの生活実態調査」の調査結果の概要

#### 家族との関係・家庭での生活

父母が話を聞いてくれる割合は、小5、中2とも9割以上で、小5の方の割合が高い。

家庭での会話の内容は、小5、中2とも「学校でのできごと」が最も多く（小5では約9割、中2では約8割）そのほかは、小5、中2とも「友達のこと」や「部活動のこと」が多い。

塾や習い事に通っている子どもが、小5では約9割、中2では約7割あり、塾や習い事に通っている子どもの割合が高い。

塾や習い事、部活動などの忙しさが、就寝時間を遅くし、毎日朝食を食べる子どもの割合の低下につながっている。

インターネットについては、小5では約8割、中2では9割以上が利用している。

利用の内容は、小5、中2とも「遊びや趣味で」が最も多く（小5では約5割、中2では約7割）そのほかは、小5では、「学校の授業で」や「学校の宿題のため」が多く、中2では、「友達とのメール」や「家との連絡のため」が多い。

#### 学校生活

「部（クラブ）活動」については、小5では約6割、中2では約9割が運動部や文化部に入っている。

特に中2では、部活動の日数が多い子どもに忙しいと感じている割合が高かったが、部活動が楽しいと感じている子どもの割合は、8割以上と多くなっている。

「学校に行きたくないと思ったこと」が「いつもある」又は「ときどきある」子どもは、小5では約1割、中2では約2割あり、そのうち前年度までも同様に思っていた子どもは、小5、中2とも約6割あった。

「学校に行きたくない理由」は、小5、中2とも「体の疲れや睡眠不足」で最も多く（小5では約4割、中2では約5割）次いで、小5、中2とも「なんとなく」が多い。

「学校に行きたくないと思っても登校できた理由」は、小5、中2とも「学校は休んではいけないものだと思ったから」が最も多く(小5では約8割、中2では約4割)、そのほかは、小5では、「親から行くように言われたから」や「勉強がわからなくなると困ると思ったから」が多く、中2では、「なんとなく」や「勉強がわからなくなると困ると思ったから」が多い。

## **悩み**

「悩み事や心配事」が「ある」子どもは、小5では約5割、中2では約7割ある。

「悩み事や心配事の内容」は、小5、中2とも「勉強や進学のこと」が最も多く(小5では約2割、中2では約5割)、そのほかは、小5では、「友達のこと」や「自分の性格のこと」が多く、中2では、「部(クラブ)活動のこと」や「将来の職業のこと」が多い。

「悩みの相談相手」は、小5では、「お母さん」が最も多く約7割、中2では、「学校の友達」が最も多く約6割となっている。

「だれにも相談しない」子どもが、小5、中2とも約2割いるが、「父母に話を聞いてもらえない」子どもに多くなっている。

## **地域との関係**

「家族で付き合いのある近所の人」が「いる」子どもは、小5では約9割、中2では約8割あり、この子どもたちの中に、「近所の人からほめられたり、叱られたりすること」が「ある」の割合が高くなっている。

「地域で参加してみたい活動」は、小5、中2とも「スポーツに関する活動」が約3割と最も多く、そのほかは、小5、中2とも「文化に関する活動」や「小さい子どもたちの指導や世話」が多い。

## **将来への意識**

「夢やいきがい」が「ある」子どもは、小5では約9割、中2では約8割あり、その内容としては、小5では、「自分の個性や才能を活かしたい」、

「好きなことをしながら生活したい」、「思いやりのあるやさしい人になりたい」がそれぞれ約2割と多く、中2では、「好きなことをしながら生活したい」が約3割で最も多く、次いで、「自分の個性や才能を活かしたい」が多い。

「夢やいきがいが実現する可能性」が「ある」子どもは、小5では約8割、中2では約7割となっている。

「つきたい職業」が「ある」子どもは、小5では約8割、中2では約7割あり、「つきたい職業の実現可能性」が「ある」子どもは、小5では約8割、中2では約7割となっている。

自分の「将来の明るさ」が「ある」子どもは、小5では約9割、中2では約7割となっている。

「夢やいきがいを実現する可能性」、「つきたい職業の実現可能性」、「将来の明るさ」が「ある」子どもの割合は、「父母に話を聞いてもらえない」子どもよりも、「父母に話を聞いてもらえる」子どもの方が高くなっている。

### **心身の健康状態**

心身の健康度・生活の満足度を表すQOL (Quality of Life) 得点(得点が高いほどよりよい状態を示す。)は、小5より中2の方が低く、中2では男子よりも女子の方が低い。

(注)【QOL尺度の定義は、報告書の2頁参照。】

そのほか、次のような子どもは、QOL得点が低い。

- ・ 就寝時間が遅い、睡眠時間が短い
- ・ 朝食を毎日食べていない
- ・ 父母に話を聞いてもらえない
- ・ 家族で付き合いのある近所の人がいらない

「だれかに怒りをぶつけないと思ったこと」が「ある」子どもは、「悩みがある」、「将来が明るいと思わない」、「家で嫌なことがある」、「父母に話を聞いてもらえない」、「一緒に遊ぶ友達がいない」ような子どもにその頻度が多い。

### **不登校意識に関連する要因**

「不登校意識群」(学校に行きたくないと思うことが「いつもある」又は「ときどきある」と答えた子どもたち)のQOL得点は、「不登校意識群」以外の「一般群」より低く、特に中2で自尊感情が低い。

「不登校意識群」には、「イライラすること」、「だれかに怒りをぶつけないと思ったこと」、「何もやる気がしないこと」、「何かに集中できないこと」がある子どもの割合が、「一般群」より高い。

そのほか、次のような割合は、「不登校意識群」の子どもの方が「一般群」の子どもより高い。

- ・ 就寝時間が遅い、昼間に眠たかったことがある
- ・ 朝食を毎日食べていない
- ・ 家で嫌なことがある、父母に話を聞いてもらえない
- ・ 一緒に遊ぶ友達がいない、知らない人とメールをする
- ・ 部活動が楽しくない
- ・ 悩み事や心配事がある、困ったことや悩み事を相談しない
- ・ 「夢やいきがいが実現する可能性がない」、「つきたい職業が実現する可能性がない」、「自分の将来が明るくない」と思っている
- ・ 家族で付き合いのある近所の人がない

### **地域に望むこと**

「思いっきり遊べる公園などを増やしてほしい」、「家族で遊びに行ける場所を増やしてほしい」、「地域の環境を安全にしてほしい」、「友達やいろいろな人と交流でき、居場所となる施設を増やしてほしい」が多い。

「じっくり話を聞いてくれるおとながいてほしい」は、「父母に話を聞いてもらえない」、「困ったことや悩み事を相談しない」ような子ども、「不登校意識群」の子どもにその要望が多い。

### **考察**

父母に話を聞いてもらえない子どもは、心身の健康度・生活の満足度は低く、自分の将来についても否定的にとらえる傾向があり、悩み事があっても相談しない割合が高い。

不登校意識群の子どもは、心身の健康度・生活の満足度は低く、特に中2で自尊感情が低い。

また、そのような子どもには、「父母に話を聞いてもらえない」、「悩みや心配事がある」、「困ったことや悩み事を相談しない」、「家族で付き合いのある近所の人がない」割合が高い。

子どもが父母に話を聞いてもらえているかどうかは、多くの要因と関連しており、子どもの発達・自立にとって特に重要なことだと考えられる。

それとともに、家庭だけではなく、地域で子どもの話を聞いてくれる人が必要である。